

授業科目 小児発達保健論（PBL）

【担当教員名】		対象学年	2 年	対象学科	看護学科
岩田みどり他		開講時期	後期	必修・選択	必須
		単位数	1 単位	時間数	1 5 時間
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】 本科目では、健康問題を持つ子どもと家族の看護を、3つの事例を用いて小児看護学に必要なアセスメントの知識を身につける。学習方法としては、PBL（Problem-Based-Learning）を用い、グループ単位で事例に必要な看護計画の立案を目標にした学習をする。小児看護学の文献活用方法やグループ討論のスキルを身につける。学習に当たって、チューターが参加し、グループの学習をサポートする。（尚、小児発達保健論の、子どもの権利条約、関連法規、小児保健対策、予防接種などは、小児看護学に含めて3年次に学習する。）					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】 1）子どもの健康問題と治療の経過を説明する。 2）子どもと家族の発達の特徴を説明する。 3）身体的・心理社会的両面から看護問題を討議する。 4）看護問題の根拠を討議する。 5）事例に必要な看護を討議する。 6）学習過程を整理し、学習できたこと、残された課題を表現する。 7）グループ学習に主体的に参加・協力する。					
回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員		
1 回	課題シートから、学習項目を抽出する。5回の学習計画を立案し、学習目標を決めておく。課題1：3歳、川崎病、「おくすり、きらーい」、課題2：14歳、白血病、「ぼく、どーせ死んじゃうんだろ」、課題3：学童期、喘息「テーマ検討中」	1～7	1グループにチューター（小児看護学担当教員）が1名担当。		
2 回	チューターなし、プレゼンテーションの準備		岩田		
3 回	各メンバーが調べた学習項目をプレゼンテーションし、事例の看護問題・ニーズを予測する。		松井		
4 回	チューターなし、事例の看護問題をアセスメントする。合同発表会の資料を作成する。		富崎		
5 回	他のグループに検討してきた看護問題や看護介入を報告し、学習過程の振り返り・評価に役立てる。また複数の事例から小児看護学の特徴を学ぶ機会とする。				
6 回	チューターなし、他グループの発表から学習したことをまとめ、グループの学習不				
7 回	6回目の自己学習を含めてすべての過程を一冊のノートに整理し、ポートフォリオシートに事例から学んだことをまとめ担当したチューターに提出する。				
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 （必ず購入する書籍）					
参考書					
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
最終提出ノート50%+PBL学習態度評価50%		初回に説明する。			